



2023年度 浸礼式



2023年7月17日(月、祝)、秋川祈禱院で2023年度浸礼式が行われ、32名の聖徒が浸礼を受けました。(詳細は次頁参照)

目次

- P2 : 浸礼式@秋川祈禱院
- P3 : 北海道宣教&浸礼式
- P4 : 大阪純福音教会 担任牧師 就任礼拝
- P4 : WCBA・WAKB 総会 及び 開会礼拝
- P5 : しろたんぽぽ 野外食堂
- P6 : たんぽぽ 子ども食堂・文化教室
- P7 : コ・ミョンジン牧師 祝福聖会
- P8 : 担任牧師コラム「苦難に会う時」
- P8 : 宣教大会で日本の宣教状況を報告

家族新聞はWeb版も更新していますので、ご覧ください。



<https://www.fgtc.news>

お知らせ



札幌神学校 第3期生 募集中

関心のある方は、教区長までお問い合わせください。
ホームページ(<https://sapporobible.college>) ⇒



たんぽぽ子ども食堂・文化教室 ホームページ公開

2023年内は、8/11、9/18、9/23、10/9、11/3、11/23 に開催します。
ホームページ (<https://tanpopokitchen.jp/>) ⇒



しろたんぽぽ野外食堂 ホームページ公開

毎週土曜日11:30から開催しています。教会集合時間は10:00です。
ホームページ (<https://shirotanpopo.jp/>) ⇒



浸礼式 @秋川祈禱院

2023.7.17 (月・祝)



それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にひとしくなるであろう。

— ローマ人への手紙 6:3-5 —

2023年7月17日(月・祝)、東京都内の自然豊かな秋川溪谷にある秋川祈禱院で浸礼式が行われました。

2023年に浸礼を受けた聖徒は32名となり、浸礼式のために、対象者は3回の浸礼教育を受けました。また、純福音東京教会では、7月10日(月)から14日(金)まで、浸礼式特別早天祈禱会を捧げ、祈り備えてきました。

浸礼式にあたり、志垣重政担任牧師は浸礼式礼拝を導き、「バプテスマ」の主題で、御言葉を述べ伝えました。

「神様がいない人生を生きてきた過去の自分は、復活のイエス様と一体となり、共に死に、共に新しい命を得ます。新しい人生を出発することが今日の浸礼の意味です。そのため、御言葉を握って浸礼を受けることで、新しい人生を生きることができます。」と伝えました。そして、これからイエス様のように生きることができるようにと、祝福しました。

メッセージの後、浸礼を受ける聖徒のために集まった多くの純福音東京教会の聖徒らの期待の中で、浸礼式が行われました。

浸礼式の後には、食事の交わりをし、喜びの心で神様の恵みを分かち合いました。

浸礼式を通して、イエス様を受け入れ、新しい人とし生まれかわった聖徒を祝福します。そして、これから神様中心の真なるクリスチャンとして生きる聖徒の人生に、神様の恵みが溢れますようにお祈りします。



北海道宣教 祝福聖会 & 浸礼式 2023.7.13(木)-15(土)

祝福聖会 7月14日(金)

主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。主はわたしの魂をいきかえらせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる。

たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざを恐れませぬ。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。

わたしの生きているかぎりには必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。

— 詩篇 23:1-6 —

7月14日(金)、札幌聖殿の聖徒達と手作りの韓国料理を共に分かち合い、食事の交わりの時間を持ちました。そして、午後8時30分から祝福聖会が開かれました。

志垣重政担任牧師は、「四次元」という主題でメッセージを宣べ伝えました。「ダビデが肯定的な考えを持つようになった根拠は、神様が牧者であるからです。神様が共におられると信じれば、憂いは消え去ります。肯定的な考えの延長線上には夢があり、夢を持つと目標が決まり、計画が立てられます。夢が叶うと唇で告白すると、夢が成就します。」と宣べ伝えました。



そして、詩篇23篇に暗示されるヤーウェロイ、シャロームなど神様の七つの名について解説しました。“神様は私の牧者であって、わたしはできる。”との肯定的な考えを持って祈れば、夢が成就されると祝福の御言葉を伝えました。



それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

— ローマ人への手紙 6:3 —

浸礼式 @定山溪 7月15日(土)

7月15日(土)、札幌聖殿で志垣重政牧師が、浸礼を受ける聖徒を対象として、「ローマ書6章3節」の御言葉を用いて、「イエス・キリストの中で、神様の豊かな祝福の人生を歩んで、新しい復活の日となるように。」と祝福しました。

浸礼式は、温泉と紅葉が有名な定山溪で行われました。浸礼式の準備が終わった後、神学生と宣教チームの賛美と共に浸礼式が始まりました。参加した人達の祝福の中で浸礼を受けた劉ビンウン聖徒は、新しく生まれ変わり、顔が明るく輝きました。

この日、朝からたくさんの雨が降っていましたが、神様の恵みで、無事に終わったことに、感謝と栄光をお捧げ致します。



大阪純福音教会 担任牧師 就任礼拝 2023.6.27(火)

悪しき者のはかりごとによらず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は主のおきてをよるこび、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしぼまないように、そのなすところは皆栄える。
— 詩篇 1:1-3 —

6月27日(火)、大阪純福音教会で担任牧師就任礼拝が神様に捧げられました。そして、純福音東京教会の総務牧師や錦糸町支聖殿の担当牧師など、長期に渡って純福音東京教会に仕え、献身したヤン・ヒョングン牧師が大阪純福音教会担任牧師として就任しました。

大阪純福音教会はその名の通り、東京に次ぐ人口の大都市、大阪府に位置し、日本の救霊活動において、極めて重要な教会です。

今回の就任礼拝では、純福音葛西教会のオ・ミヌ担任牧師が司会を務め、代表祈禱を純福音成田教会の妹尾光樹担任牧師、聖書朗読を仙台純福音教会のシン・ヨングク牧師、献金祈禱を純福音船堀教会の遠藤高志担任牧師が務めたことに加えて、多くの大阪純福音教会の聖徒と、日本全国の純福音教会の宣教師が集まり、ヤン・ヒョングン牧師の担任牧師への就任を祝福し、神様に感謝をお捧げする礼拝となりました。

礼拝を導いたフルゴスペル日本総会総会長、志垣重政牧師は、「幸いな人」の主題で御言葉を取り次ぎました。

「悪人とは、人生の中心に神様がいない者です。罪人とは、神様、即ち御言葉から外れ、間違っただ目標を持つ者です。そして、幸いな人とは、神様の御言葉の中で生きる人であり、神様の御言葉通りに生きる人です。神様が人生の中心にいれば、祝福の道を歩むことができます。」と恵みを分かち合いました。

メッセージ後は、就任式が執り行われ、ヤン・ヒョングン牧師による宣誓と挨拶が行われ、「大阪純福音教会を良く導いていく」と宣言しました。

大阪純福音教会の更なるリバイバルとヤン・ヒョングン牧師、同教会の聖徒一同に大なる祝福、そして、日本を代表する2つの大都市である東京と大阪が、より一層連帯し、日本一千万救霊に向けた活動が加速されるように、イエス様の御名により、お祈りします。



WCBA・WAKB 総会 及び 開会礼拝 2023.5.9(火)-12(金)

イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」
— マタイの福音書 28:18-20 —

WCBA・WAKB 第27回総会が5月9日(火)から12日(金)まで、純福音東京教会、および浅草ビューホテルにて、「福音を込めたメディア、世界の中へ」をテーマとして開催されました。今回の総会は、志垣重政担任牧師が準備大会長を務め、純福音東京教会が準備を導き、韓国、アメリカ、日本など世界でマスコミを通し、福音を伝える多くのキリスト教放送社が参加しました。

WCBA(世界韓国人キリスト教放送協会)とWAKB(世界韓国人放送協会)は、いずれも全世界でラジオとテレビ、インターネットで福音を伝える韓国人クリスチャン放送関係社の集まりで、社会の和合と発展に貢献することを目標としています。

5月9日(火)午後7時、純福音東京教会の大聖殿で開会礼拝が開かれました。イ・ヨンファン牧師(WCBA理事長)は「聖霊と宣教」の主題でメッセージを取り次ぎました。



「私たちは宣教の使命を必ず守らなければなりません。復活したイエス様に出会った弟子たちのように、私たちもイエス様の権威と聖霊の力で福音の使命を果たさなければなりません。」と述べ、宣教は自分の力ではなく、イエス様の権威として行うものであると伝えました。

そして、志垣重政担任牧師からは、「各国から来られた韓国人放送関係者の皆様を歓迎します。日本にもキリスト教放送があれば、宣教に大きな助けとなると思います。大会期間中、神様の恵みが共におられますように。」と祝福しました。



子ども達とその家庭を神様の祝福の中に導く たんぽぽ 子ども食堂 & 文化教室

たんぽぽ子ども食堂・文化教室の設立の背景

日本に居住する子どもは、7人に1人が貧困状態にあると言われています。

厚生労働省が行っている国民生活基礎調査では、約16%の子どもが相対的貧困状態にあり、それによる教育格差の拡大は、解決が求められる社会問題であると位置づけられています。

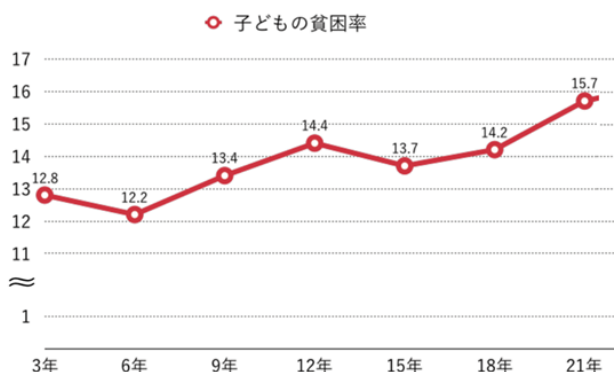
また、先進国における相対的貧困には、下記のように「狭義」と「広義」、2つの意味があるとされ、経済格差の拡大やそれに伴う劣等感、不平等感、世の中に対する不満や諦めなど、子どもたちの抱える心の問題は、複雑化しています。

狭義

経済的な事情で標準を下回る生活
経済的な事情で食事や生活必需品が十分に得られない、または大多数と比較して生活の質が落ちる状態
(例：バランスの悪い食事など)

広義

経済的な事情を背景とした課題全般
共働きや片親などの親の負担の増加により、本来得られる社会的接点や教育機会が得られない状態
(例：習い事を諦めるなど)



※ 厚生労働省 「国民生活基礎調査」 から抜粋

このような背景から、純福音東京教会は、神様から頂いたビジョンである「子ども食堂・文化教室」を設立し、子ども達に食事と教育機会を提供することで、表層的な経済的困窮家庭に留まらずに、様々な事情で成長機会が奪われる子どもとその家庭に愛を分かち合い、福音を述べ伝えて参ります。

たんぽぽ子ども食堂・文化教室の概要と今後のビジョン

子ども食堂で、栄養バランスと健康面が十分に配慮され、食材にもこだわった暖かい手料理を準備します。そして、文化教室で、文化体験と学びが行えるカリキュラムを準備します。これらが無償で子ども達に提供します。

2023年中は祝祭日に開催を予定しておりますが、今後は開催頻度の向上と文化教室での学習の拡充を図り、徐々に規模を大きくしていくことを検討します。

将来的には、様々な事情で社会から疎外されたり、不幸な境遇にあっている子ども達を、一般の子ども達にも勝る教育環境の中で、御言葉を述べ伝え、育てていけるような施設へと昇華させることが純福音東京教会が神様から与えられたビジョンです。

このビジョンが、純福音東京教会の聖徒一同と共に見るビジョンとなり、共に祈り、共に歩む事業となることを信じ、イエス様の御名で祝福し、お祈りします。

たんぽぽ子ども食堂・文化教室の活動状況

5月5日の子どもの日、純福音東京教会で 第1回目の子ども食堂・文化教室が開かれました。

学童保育施設や小中学校の近くでのチラシ配布に加え、教会学校の子供達が多数の友達に声をかけ、導き連れてきた働きもあり、47名もの子どもが集まる恵みの時間となりました。

食事を共にした後、志垣重政担任牧師が祈りを導き、

ミニコンサートで子ども達を歓迎しました。その後は、「語学」「音楽」「IT」「美術」を楽しく学べる文化教室が開かれました。

準備した全ての企画が活況で、子ども達と喜びを分かち合うことができました。祈りと献身で支えて頂いたすべての聖徒に感謝し、神様に栄光をお返しいたします。





教会が地域に出て、愛の実践と福音の伝播を行う しろたんぽぽ 野外食堂

しろたんぽぽ 野外食堂とは？ 設立背景と事業内容を改めて解説！

新型コロナウイルスの感染拡大は、健康被害や医療ひっ迫だけに留まらず、経済的な影響や人と人との繋がりや断絶など、様々な問題を引き起こしました。

とりわけ、純福音東京教会がある新宿地区の状況は深刻で、路上居住者や失業者の増加はもとより、収入が減少した健康な若者、社会から断絶され孤立した一人暮らしの高齢者など、家族や行政、民間の慈善団体の支援が届きづらい様々な困難を抱える人が増加しています。

このような現状に対して、純福音東京教会は、“イエス・キリストの愛を分け隔てなく分かち合い、神様の御前に世の民を導くこと”を神様からのビジョンとして与えられました。教会が地域に出ていき、共に礼拝を捧げ、食事を分かち合い、共に時間を過ごすことで、世の民を神様の御許に導きます。

多くの未信者が神様を受け容れ、その恵みで力強く立ち上がり、神様の栄光が現わされるように、この使命を全うします。

活動状況と今後の取り組みを紹介

しろたんぽぽ野外食堂は毎週土曜日の11時30分に始まります。新宿近辺の公園(当面の間、毎週場所が変わります)で行っています。賛美と礼拝をお捧げした後に用意した食事を分かち合います。

現在は、路上居住者を中心としたチラシ配りで活動の周知を行っていますが、神様の恵みで教会関係者を除く一般の方の礼拝参加者が既に100名を超える規模に成長しました。近隣住民や公園管理者との関係も良好です。

今後は、この活動を着実に継続していくと共に、インターネットの活用なども検討し、300名礼拝を目指しています。つきましては、教会が地域に出ていき、イエス様の愛を実践する機会として、聖徒皆さまの積極的なご参加とご支援、お祈りを願います。



しろたんぽぽ 野外食堂 たんぽぽ 子ども食堂・文化教室

名前の由来とその意味に 込められた願い

たんぽぽは、英語ではダンディライオンと言い、コンクリートの間からでも成長し、踏まれても起き上がる力強い印象がある一方で、食用にもなり、根は薬用としても用いられる献身的な花でもあります。また、種を風に乗せて遠くの地に飛ばし、美しい花を咲かせます。

たんぽぽのこのような生態のように、私たちが力強く、そして献身的に、何よりも美しく福音の種を撒いていくことができるように、“たんぽぽ”をそれぞれの名前に取り入れました。

「たんぽぽ子ども食堂・文化教室」に用いられている“たんぽぽ”は花言葉として、「真心の愛」や「幸福であるように」という意味があります。そして、「しろたんぽぽ野外食堂」に用いられている“しろたんぽぽ”の花ことばは「私を見つめて、私を探して」という意味があります。

名前の由来通りの思いを持って、この名前に恥じない活動をしていくことができますように、イエス様の御名により、祝福し、お祈りします。

コ・ミョンジン牧師 祝福聖会 2023.5.3(水)-5(金)

2023年5月3日～5日、水原中央バプテスト教会で担任牧師を務めるコ・ミョンジン牧師を講師としてお招きし、祝福聖会を開きました。コ・ミョンジン牧師は、聖会の3日間を通して、「“神様の人”がどのような人であるか」を聖書の人物像から紐解き、恵みのメッセージを述べ伝えました。

聖会初日 (5月3日)



人々はこれを聞いて、心の底から激しく怒り、ステパノにむかって、歯ぎしりをした。しかし、彼は聖霊に満たされて、天を見つめていると、神の栄光が現れ、イエスが神の右に立っておられるのが見えた。 — 中略 — 彼を市外に引き出して、石で打った。これに立ち合った人たちは、自分の上着を脱いで、サウロという若者の足もとに置いた。こうして、彼らがステパノに石を投げつけている間、ステパノは祈りつづけて言った、「主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい」。そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい」。こう言って、彼は眠りについた。

— 使徒行伝 7:54-60 —

聖会の初日、コ・ミョンジン牧師は「ステパノ」という主題でメッセージを取り次ぎました。

「殉教した福音の証人として注目されるステパノは、聖霊と御言葉、信仰、知恵、権能など聖書的に美しいもので満たされた人物でした。そして、仕える者であり、もてなす者でした。そして、決して長くない公生涯の中で、最後は父なる神様に自身の魂をゆだね、人生を美しく結ぶことができました。正に人としてお生まれになり、世に仕えたイエス様の姿に似ていたと言えます。私たちが見習うべき福音伝播者です。」と聖書の御言葉から人物像を解き明かしました。そして、純福音東京教会の聖徒が素晴らしい信仰者となることを願い、祝福しました。



聖会2日目 (5月4日)

ギレアデのテシベに住むテシベびとエリヤはアハブに言った、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」。 — 列王記上 17:1 —



2日目は「エリヤ」という主題でメッセージが取り次がれました。「旧約聖書の預言者エリヤは神様の御声に耳を傾けて行動する人であり、祈る人であったから、多くの奇跡を起こすことができました。」と聖句を解説しました。

その上で、聖徒に最も伝えたいこととして、「エリヤは、バアルやアシラに偶像崇拜を行う850人の預言者との霊的戦争に完全に勝利するほど強さがあったのにも関わらず、心が弱くなり、臆病になり、荒野に逃げたことがありました。それでも、エリヤは神様が自分の側にいることを信じ、神様を見つめていました。我々クリスチャンも上手くいくときもあれば、上手くいかないときもあります。そのようなときでも、神様が自分の側にいるという真理だけを疑わず、決して手放さないように。」と純福音東京教会の聖徒を励ました。

聖会最終日 (5月5日)

— 前略 — キリスト・イエスにあって、わたしと共に捕われの身になっているエパfrasから、あなたによろしく。わたしの同労者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからも、よろしく。

— 後略 —

— プレモンへの手紙 1:1-25 —

聖会の最終日、「プレモンとオネシモ」という主題でメッセージが取り次がれました。

パウロの同労者エパfrasのコロサイ宣教でイエス様を受け容れたプレモン、そして、プレモンの奴隷でありながら、罪を犯して牢獄に繋がれているところを、パウロを通してイエス様を受け入れたオネシモ、これらの不思議な霊的な系図を解説し、プレモン書が私たちに許しと悔い改めを勧めている書簡でもあることを解き明かしました。



そして、「パウロが持ったプレモンへの希望を私達が受け取り、誠なる悔い改めと許しの人となれますように。」と純福音東京教会の聖徒を祝福しました。

志垣重政担任牧師コラム

『 苦難に会う時 』

あなたがたの中に、苦しんでいる者があるか。その人は、祈るがよい。喜んでいる者があるか。その人は、賛美するがよい。
— ヤコブの手紙 5:13 —

誰もが幸福を願い、苦難を望む人はいません。しかし、苦難は必ず訪れます。苦難に会った時、どう祈ったら良いのでしょうか。

第一は、悔い改めの祈りです。人は平素、自分の犯した過ちや罪について深く考えませんが、苦難に会うと、「もしかして・・・」と思いを巡らすようになります。そして、神様に背いたこと、礼拝を疎かにしたこと、神様を愛さなかったこと、家族や友人を愛さなかったこと、隣人を愛さなかったことに気づきます。苦難に会い、素直になって自分自身を振り返り、己の過ち・罪科を悟るのです。

順風満帆な暮らしだけだったら、私達は悔改めることはしないでしょ。苦難は真の悔改めの機会なのです。私たちの信仰を強めるために、試練は必ず訪れます。人生の方向を修正する機会であることを悟りましょう。

モーセは40年、アブラハムは25年、ヤコブは20年、ヨセフは13年の試練に会いました。その苦難の後に、信仰の先輩たちがどれほど大きな祝福を受けたかを皆様はご存知のはずです。アダムの子孫である私たちの属性は、不従順・不信仰です。イエス様を受け容れても、この本性は簡単には変わりません。だからこそ、神は苦難を通して悔改めの機会を与えて下さるのです。

第二は、感謝の祈りです。平素、人は全ての環境的祝福に対して無感覚です。当たり前のように享受するのみです。しかし、苦難に会うと、輝く太陽・新鮮な空気・清い水・五穀百果に感謝するようになります。愛する家族に感謝するようになり、友人や隣人の尊さを知るようになります。何よりも神によって生かされている事に気づくのです。

余命三ヶ月を宣告された青年の日記に、食事を感謝し、噛みしめながら味わい、コップ一杯の水もゆっくりと頂く喜びを知ったとあります。

病に陥った時、健康の有難さを知ります。家へ去った時、家庭・家族への感謝を思い起こします。軍隊に入り、厳しい訓練を受けた青年が、親孝行に変わるのは当然のことなのです。

すべてに感謝することを学びましょう。苦難は感謝を学ぶための教材です。「感謝の生贄を捧げる者は、私を崇める」(詩編50:23)とあります。感謝を知らない人は、香りのない花、歌を忘れたカナリヤです。普段は、無いモノを見つけては、不平不満を言っていた人が、苦難に会い、有るモノを見つけて感謝するようになります。感謝は、人生の価値観を変えてくれます。苦難は人生病に対する神の処方箋なのです。苦難の際、不平不満は毒草になり、感謝は良薬になることを悟りましょう。

第三は、信仰の祈りです。平常時に祈ることをしなかった人が祈るようになります。苦難は祈りを覚えるための鞭です。困難な時、人は切実な礼拝を捧げるようになります。知らないうちに祈り始めている己を発見します。そして、その祈りを通して信仰が強められていくのです。

苦難にあるとき、信仰を学びます。「彼が私と呼ぶとき、私は彼に答える」(詩編91:15)、「私を呼び求めよ、そうすれば、私はあなたに答える」(エレミヤ33:3)。祈りによって神の答えを受け取り、更に信仰が深まっていきます。苦難は神の答えを受け取る機会を与えてくれます。信仰が成長していき、動揺しないものになります。

苦難は心身に衝撃をもたらす大事件です。しかし、苦難がなかったらイエス様に会えたでしょうか。皆さんは、苦難を通して、不純物のない純金へと精錬されていくのです。主の偉大な恵みが皆さんと共にありますように。

宣教大会で日本の宣教状況を報告 2023.5.31(水)



京教会の軌跡について振り返り、ヤンヒョングン牧師が宣教報告を行いました。

日本はキリスト教が伝わって長い歴史があるが、クリスチャン人口が0.4%に過ぎず、そのうち聖日礼拝の参加者は、僅か0.2%となっている厳しい現状について、報告しました。加えて、コロナの影響で多くの教団・教会において15%の聖徒の減少する困難な時を迎えていることも共有しました。その一方で、聖霊運動を繰り広げる私達、ペンテコステ派については、15%の成長があり、一定の宣教成果が上がっていることを

併せて報告しました。

具体的な取り組みの1つとして、札幌神学校を設立したこと、日本宣教に力を発揮する宣教師の養成に力を入れていることを挙げ、100の教会設立を目指すビジョンについても述べました。

純福音世界宣教会理事長であるイ・ヨンフン牧師が1000の教会を開拓する宣教ビジョンを宣言したことに對して、フルゴスペル日本総会がその1割を担い、福音の不毛の地と言われる日本で驚くべきリバイバルが起こることを宣言し、宣教報告を締めくくりました。

5月31日(水)、ヨイド純福音教会で世界宣教大会が行われ、世界中の宣教師たちと共に、純福音東京教会教役者も参加しました。

フルゴスペル日本総会長である志垣重政牧師が冒頭の挨拶で純福音東